

〔杏林雜話〕松岡成章以精本草聞於京師享保中辟鑿別藥品時清商始齋空青至有司私請曰此物若非眞則官不啻失利吏亦從有罪幹旋賴子之一言請圖之成章曰諾鑿畢大聲曰是僞也空青內必蓄水一碎試之而可有司錯愕不知所爲碎而視之果乾涸無水矣人皆服其精鑿官將留祿成章固辭曰臣邱壑念頻矣請賜放歸官不能奪賞以金若干成章卽以爲路資迨歸京師封其餘還之於官府

〔續近世畸人傳二〕松岡怒庵附稻若水

怒庵松岡氏名は玄達字は成章怡顏齋と號す垂加の神道を學びては眞鈴マツシ潮翁シホともいふ平安の人其先は尾張名護屋に出づ淺井圖南子いふ怒庵先生はもと本草者にあらず儒家たれども詩經の名物を困しむ稻生若水にまがひて本草を三遍見給ひしが大方暗記して同じ頃後藤常之進などいへる本草者あれど其右に出たり故に人まきりに本草をとひ終に本業となりしかども其志にあらずとぞ博覽好古儉素淳樸の人なること人のまる處なり今其眞率なる二三條を擧ぐ大きな倉を二つたて一ツには漢の書一ツには國書を藏られしほどのことなれども火桶は深草のすやきを紙にてはり用ゐられし略○中

因に云稻生若水名は宣義字は彰信江戸の人なり若水を通名とせしかども頭は月代ありまかも被風を著し兩刀を帶たれば人皆あやしむ或時台命ありて詩經を講せし時草木鳥獸の筆におよぶほどは圖して獻す其頃木下順庵も力をあはせられけるとかやすべて産物を見ること別才ありて他の及ぶ所にあらず加賀の太守より祿三百石を賜ふ庶物類纂といふ書千卷を撰み原本副本ともに自筆にて書る原書はいま官府にあり副本は加賀に有よし惜らくはいまだ五旬に滿ずして逝す

〔杏林雜話〕田村藍名登通稱元泰精于本草而性骯髒酒間喜食諸毒蟲及蠟燭又以灰和飯而喫唯不吸煙耳井上金峩詰其故曰煙草與蚰蜒反故不用之金峩笑曰余寧捨蚰蜒而取煙草耳